



中古品の見えない危険に注意 ～製品の情報をしっかり確認～

1. 事故の発生状況

2016年から2020年の間にNITEに通知のあった製品事故情報^{※1}のうち、九州・沖縄8県で中古品の事故は、合計26件^{※2}ありました。

(1) 県別および年別事故発生件数（表1）

表1 中古品による事故の県別および年別事故発生件数（2016～2020年）（単位：件）

発生年	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	合計
2016年	6 (6)	0	0	1 (1)	0	0	0	1 (1)	8 (8)
2017年	1 (1)	1 (1)	0	0	1	0	1 (1)	0	4 (3)
2018年	0	0	0	1 (1)	0	1 (1)	0	1 (1)	3 (3)
2019年	3 (3)	0	1	0	1 (1)	0	0	0	5 (4)
2020年	2 (2)	1 (1)	1	2 (2)	0	0	0	0	6 (5)
合計 (内 火災件数)	12 (12)	2 (2)	2	4 (4)	2 (1)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	26 (23)

※1:消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含みます。

※2:重複、対象外情報を除いた事故発生件数です。

(2) 県別および被害状況別事故発生件数（表2）

表2 中古品による事故の県別および被害状況別事故発生件数（2016～2020年）（単位：件）^{※3}

被害状況		福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	合計
人的被害	死亡	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	重傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	軽傷	1	1	0	0	1	0	0	0	3
物的被害	拡大被害	5	0	0	1	1	1	1	2	11
	製品破損	6	0	2	3	0	0	0	0	11
合計		12	2	2	4	2	1	1	2	26

※3:表2において人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしません。製品本体のみの被害（製品破損）に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としています。

(3) 県別および入手法別事故発生件数（表 3）

表 3 中古品による事故の県別および入手法別事故発生件数（2016～2020 年）（単位：件）※4

入手法	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	合計
譲渡	6	1	2	3	1	0	0	1	14
インターネット	3	0	0	1	0	0	0	0	4
建物に既設	2	0	0	0	0	1	0	1	4
中古品販売店	1	1	0	0	0	0	1	0	3
その他	0	0	0	0	1	0	0	0	1
合計	12	2	2	4	2	1	1	2	26

※4: インターネットには、インターネットでの中古品の購入、インターネットオークション、フリマアプリなどを含みます。

(4) 県別および製品別事故発生件数（表 4）

表 4 中古品による事故の県別および製品別事故発生件数（2016～2020 年）（単位：件）

製品	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	合計
石油ストーブ	2	2	1	0	0	0	0	0	5
エアコン	1	0	0	0	0	0	0	1	2
照明器具	1	0	0	1	0	0	0	0	2
石油給湯機	1	0	0	1	0	0	0	0	2
電子レンジ	1	0	0	1	0	0	0	0	2
冷蔵庫	0	0	0	0	0	1	1	0	2
ガスこんろ	1	0	0	0	0	0	0	0	1
パソコン	0	0	0	1	0	0	0	0	1
ペット用品	1	0	0	0	0	0	0	0	1
モバイルバッテリー	1	0	0	0	0	0	0	0	1
ルーター	1	0	0	0	0	0	0	0	1
空気清浄機	0	0	0	0	1	0	0	0	1
自転車	0	0	1	0	0	0	0	0	1
電気ストーブ	0	0	0	0	0	0	0	1	1
電気ポット	0	0	0	0	1	0	0	0	1
電気温水器	1	0	0	0	0	0	0	0	1
電気掃除機	1	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	12	2	2	4	2	1	1	2	26

2. 中古品による事故事例

(1) 2018 年 11 月（熊本県、年齢不明、男性、製品破損）

【事故の内容】

譲渡された石油給湯機を使用中、製品本体を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

電磁ポンプの制御弁に使用されているリング（パッキン）が劣化して硬化、収縮したことにより器具内に油漏れが発生し、漏れた灯油に引火して火災に至ったものと考えられる。

(2) 2019 年 4 月（長崎県、40 歳代、女性、製品破損）

【事故の内容】

譲渡された石油ストーブを使用中、消火時に異音が生じて出火した。

【事故の原因】

石油ストーブの芯がやせ細って極端に短くなった状態で使用されていたため、消火時（芯降下時）に芯の火種が消えきらず、油受皿内に滞留していた気化灯油に引火したものと推定される。

なお、使用されていた石油ストーブは約 30 年前に販売を終了しており、取扱説明書には、「芯は消耗品である。消火しない等の現象が発生した場合に処置できない時は販売店や相談窓口にお問い合わせる。」旨、記載されている。

3. 事故の実験映像について

事故の実験映像及び写真をご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構」+「NITEのロゴ」としてください。

（本件に関するお問い合わせ先）

〒815-0032 福岡県福岡市南区塩原 2-1-28
独立行政法人製品評価技術基盤機構
九州支所 担当者 矢代

電話:092-551-1315 FAX:092-551-1329